



東証JASDAQ上場

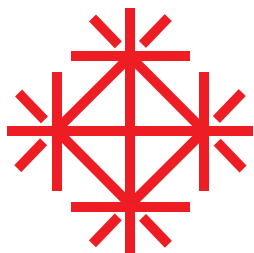
証券コード  
2700

「熟色鮮やかな北陸の品種」を  
名前の由来とするお米は？

- ①あきたこまち
- ②コシヒカリ
- ③きらら397

答えは裏表紙をご覧ください

木徳神糧株式会社



第68期

中間株主通信

平成27年1月1日 ▶ 平成27年6月30日

## 中期経営計画2年目の上半期も 事業モデルの変革が 着実に進展していると 実感できる成果を 得ることができました。



代表取締役社長

平山 惇

**Q** 2015年12月期の上半期の業績についてお聞かせください。

**A** 米穀事業の取り組みが利益率向上に寄与し、**全社利益を大きく牽引しました。**

主力の米穀事業において、中食や外食向けの販売数量が堅調で、販売数量は前年同期を上回りましたが、平成26年産米の販売価格が大幅に下落したことにより、連結売上高は前年同期比5.3%減となる510億82百万円となりました。

利益面では、米穀事業における中食や外食向けの精米販売、卸業者間の玄米販売の拡大に加え、仕入れ手法の多様化推進による仕入れ価格の低減や販売管理コストの削減、在庫管理の徹底に注力したこと等が、グループ全体の利益を牽引し、営業利益は前年同期比46.9%増となる7億79百万円を確保することができました。

飼料事業は、配合飼料相場が高値で推移しているなか、脱脂糠やふすまといった糟糠類の販売数量は減少したものの、牧草や穀類等の配合飼料原

	2015年12月期 上半期実績	2015年12月期 通期期初予想	2015年12月期 通期修正予想 <sup>※1</sup>
売上高	51,082百万円	103,800百万円	101,000百万円
営業利益	779百万円	830百万円	1,100百万円
経常利益	797百万円	780百万円	1,080百万円
四半期(当期)純利益	522百万円	500百万円	680百万円
1株当たり配当金	中間配当 5円	中間配当 3円/期末配当 3円	期末配当 5円 <sup>※2</sup>

※1 2015年5月12日修正発表

※2 2015年8月11日修正発表

料の販売堅調、飼料米の新規取り扱い等により、増収増益となりました。

食品事業は、付加価値商品のたんぱく質調整米は堅調でしたが、前年6月に撤退完了した惣菜加工分野の売上高減少をカバーできず、減収となった一方で、鶏肉を取り扱う子会社の経営再建が進展し、赤字幅が大幅に縮小しました。鶏卵事業は、特殊卵の販売競争が激化したことにより、販売数量・利益率が低下しています。

## Q 中期経営計画の進捗状況と手応えをお聞かせください。

### A 3つの成長戦略すべてにおいて手応えと成果を感じています。

まず、成長戦略の1つ目、国内米穀事業における「広域卸の機能強化・仕入れルートの多様化」ですが、着実な進展を見せています。

取引先の出店戦略に伴い、九州・四国地方において業務用米の需要が拡大するなか、当該エリアの自社精米工場の設備増強に加え、「JA食糧さが」へ出資し、新たな拠点を確保するとともに、JAさがとの連携を強化しました。佐賀県は全国的にも有名な「ひよくもち」の特産地であることから、このもち米の精米を中心にうるち米の精米量も拡大させています。

他にも、各経済連・県本部や生産法人、生産者等からの直接仕入れルートの拡大も順調に進捗しており、互いにwin-winとなる新しい関係の構築が進んでいます。現状の直接調達比率25%程度から近い将来、40%程度にまで拡大していきたいと考えています。

また、業務・加工用向け多収穫品種開発の東北コンソーシアムに流通業代表として参加しているほか、新品種「ゆうだい21」や「ささ結」の開発に参画を進め、付加価値の高い新品種の調達を可能とする取り組みも強化しています。

2つ目の成長戦略「日本米・ジャポニカ米市場の創造と開拓」をテーマに掲げている海外展開も順調です。海外展開で最も大きな役割を果たすのは、アンジメックス・キトク社を中心としたベトナム事業ですが、日本式乾燥設備の増強後、マレーシアやシンガポール向けを中心に非常に順調に販売数量が伸長し、利益面でも大きく貢献しており、下半期はさらに期待できる状況となっています。また、当社の既存取引先によるこの地域における事業拡大の計画も複数発表され、アンジメックス・キトク社のジャポニカ米のニーズがさらに高まっており、今期には年間1万トン超の精米出荷を見込んでいます。

さらに、ベトナム北部に位置するハノイでもジ

## ト ッ プ イン タ ビ ュ ー

ジャポニカ米の生産を広げていきます。この地では気候的に優良な米が収穫できることから、2016年1月からは「コシヒカリ」を中心に作付けし、収穫量を年間500トン程度にまで拡大する計画です。日本米、ベトナム南部産ジャポニカ米、アメリカ米に加え、ベトナム北部産ジャポニカ米として、多様なニーズに応えられるよう品種のさらなる充実を図ることで、供給先の拡大、また、第三国向け輸出拡大を目指します。

中国の木徳大連についても、中国国内における販売数量が着実に積み上がり、将来に向け、期待できる状況になってきました。現在、集中的に人材面での強化を図り、今後、見込まれる事業拡大に備えているところです。

また、2014年11月には、「全日本コメ・コメ関連食品輸出促進協議会」の立ち上げに参画し、業界一丸となって海外市場の開拓に挑んでいきます。

3つ目の成長戦略「付加価値商品の拡大」についても機能性食品の拡充を進めています。機能性食品の1つであるたんぱく質調整米は、国内で1kgの少容量商品の販売を開始したほか、10月にはこのお米を使用したお餅を発売する予定です。また、ライフスタイルの変化に応える、より簡単にお釜で炊けるお米や健康促進につながる

機能性を付加したお米等、新たな付加価値を持った家庭用商品の開発も進めています。

台湾グリーン・バイオパーク(屏東県)で進めているたんぱく質調整米「真粒米」の生産工場の建設も順調で、2015年内には竣工、2016年春には、台湾・中国・東南アジアへの販売に向け、本格稼働が見込める状況になっています。

**Q** 株主の皆さまへメッセージをお願いします。

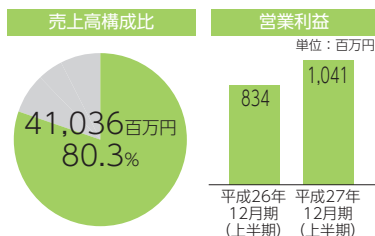
**A** 次なる成長ステージに向け、着実に進化を遂げる木徳神糧にご期待ください。

2015年12月期は、前期の好調な流れを維持し、中間配当5円、期末配当5円、年間合計10円と当初の予想から増配を計画しております。さらに、中期経営計画2年目では、次なる発展のステージとして単なる「米卸」の存在から、新しい商品・新しい価値を作り、提案・提供し続ける「ライスカンパニー」の実現に向け、着実な歩みを進められていると認識しています。引き続き、利益をしっかりと確保しながら、安定的に成長を果たすことのできる事業モデルへの変革を進めてまいりますので、その成果にご期待いただくとともに、末永くご支援いただきますようお願い申し上げます。



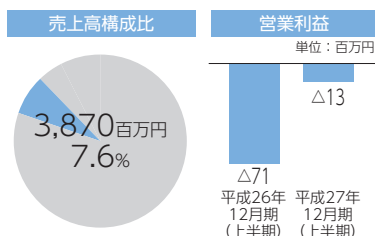
## セグメント別営業概況

## ● 米穀事業



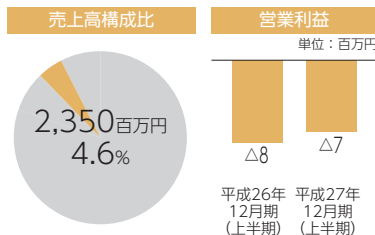
家庭用精米販売の低調に対し、中食や外食等向けの業務用精米の販売や卸業者間の玄米販売は堅調であったため、全体の販売数量が増加となりました。しかしながら、需給緩和による販売競争の激化で販売価格が大幅に下落したことから、売上高は41,036百万円となりました。一方、中食や外食等向けの販売拡大、仕入手の多様化の推進、販売管理コストの削減、在庫管理の徹底に注力した結果、営業利益は1,041百万円となりました。

## ● 食品事業



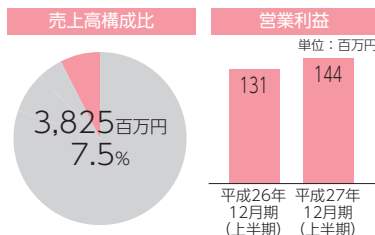
前年6月末に撤退を完了した惣菜加工分野の売上高減少をカバーできなかったため、売上高は3,870百万円となりました。しかしながら、鶏肉を取り扱う子会社の経営再建が進展し前年同期に比べ赤字幅が大幅に縮小したため、営業損失は13百万円となりました。

## ● 鶏卵事業



鶏卵相場が前年同期比下落したものの、依然として高い水準で推移したなか、特売企画が増加し一般卵の販売数量は増加いたしました。しかしながら、特殊卵の販売不振を受けて全体の販売数量が減少したため、売上高は2,350百万円となりました。また、仕入価格が上昇しているなか、特殊卵の販売競争が激化し利益率が低下したため、営業損失は7百万円となりました。

## ● 飼料事業



配合飼料相場が高値で推移しているなか、糟糠類の販売数量は減少したものの、穀類等の配合飼料原料の販売が堅調であったこと、飼料米の新規取り扱い等により、売上高は3,825百万円、営業利益は144百万円となりました。



## 台湾木徳生技 新工場起工式を開催

台湾現地法人「台湾木徳生技」の第1期工場起工式を2015年4月11日に長田産業(株)、ユニオンライス社(台湾)と共同開催し、農業委員会・陳保基主任委員をはじめ多くの来賓にご参列いただきました。たんぱく質調整米の生産拠点を台湾に設立することは、腎臓病患者だけでなく、生産者や米穀流通業者等、関わる全ての人にメリットがあり台湾の米穀産業発展に大きく貢献するとして高い評価をいただきました。

台湾木徳生技は第1期工場に1.2億台湾ドル(約5億円)に及ぶ設備投資を行い、日本の最新設備やノウハウを導入した月間50トン製造の工場を年内に稼働させる予定です。将来的には第2期工場を建設し月間80トン規模まで拡大し、台湾を中心とした米を主食とするアジア諸国に高品質のたんぱく質調整米を供給してまいります。



(中央右) 陳保基主任委員、(中央左) 平山社長



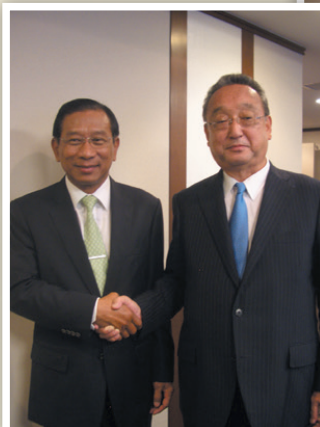
安全祈願の様子





## タイ王国チャッチャイ商務大臣と会談

6月3日に帝国ホテルにおいて、平山社長と訪日中であるタイ王国のチャッチャイ商務大臣、パタマポン副大臣、及び駐日大使館のパタイ商務公使等と約1時間にわたり会談しました。会談では、高品質の日本米の輸出、ジャスミンやタイ香り米をはじめとするタイ米の輸入、日本におけるタイ米の販売促進や認知度向上に向けたイベント等の開催等について幅広く意見を交わしました。  
※役職は会談当時のものです。



(左) チャッチャイ商務大臣



## 新入社員の農業体験

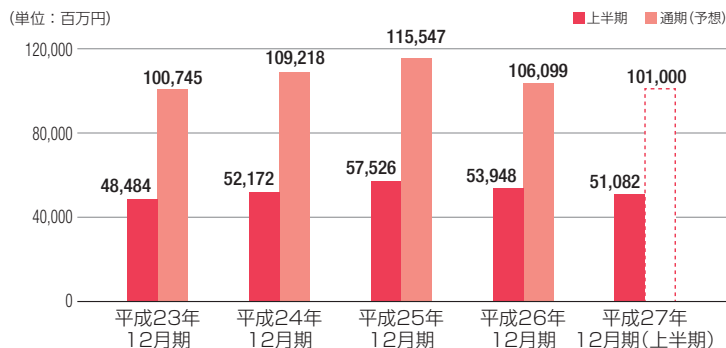
5月下旬に新入社員の農業体験を実施しました。米作りの大変さを実際に体験することで、お米の大切さだけでなく、日本の農業が直面する課題や農家の方々の努力をより深く知ることを目的としています。

新入社員からは「農家の方々の大変な努力や気持ちを知ることができた」、「販売にはお米の生産過程についての知識が重要だと思った」、「常にコストを意識して、効率よく作業し、最大限の収穫量を得ていくことが大切であると感じた」等、様々な感想がありました。



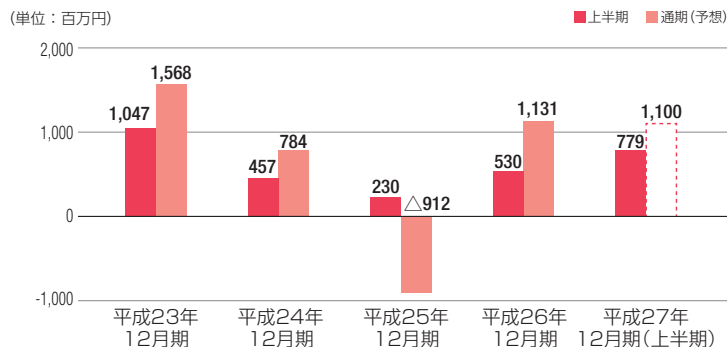
研修先：株式会社山形うー米ファーム（山形県最上郡）  
体験内容：苗運び、田植え、機械清掃など  
お米の品種：ヒメノモチ

## 売上高



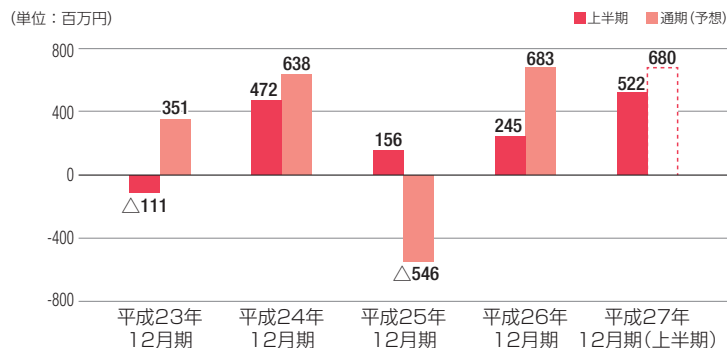
主力である米穀事業におきましては、家庭用精米の販売が苦戦したものの、業務用精米の販売や卸業者間の玄米販売は堅調で既存取引先のシェア拡大等を図り販売数量を伸ばしましたが、国内の需給緩和が続くなか、競争の激化により国産米の販売価格が前年同期比大幅に下落したため、売上高は、51,082百万円(前年同期比5.3%減)となりました。

## 営業利益



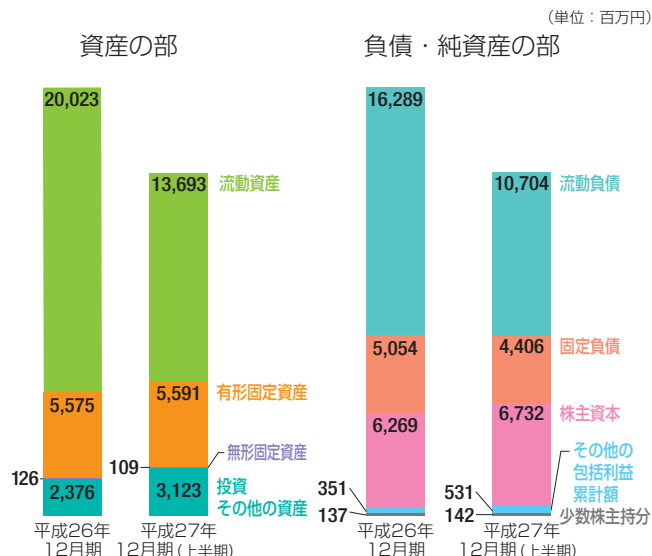
米穀事業において中食や外食向けの精米販売や卸業者間における玄米販売の拡大、仕入手法の多様化の推進、販売管理コストの削減、在庫管理の徹底に注力した結果、前年同期を上回る利益を確保し、グループ全体の利益拡大を牽引した結果、営業利益は779百万円(前年同期比46.9%増)、四半期純利益は522百万円(前年同期比112.8%増)と大幅な増益となりました。

## 四半期(当期)純利益





## 財政状態



### 総資産

主に投資有価証券の増加額742百万円等に対し、現金及び預金の減少額959百万円、受取手形及び売掛金の減少額1,261百万円、たな卸資産の減少額1,630百万円等により、前期末から5,585百万円減少し、22,517百万円となりました。

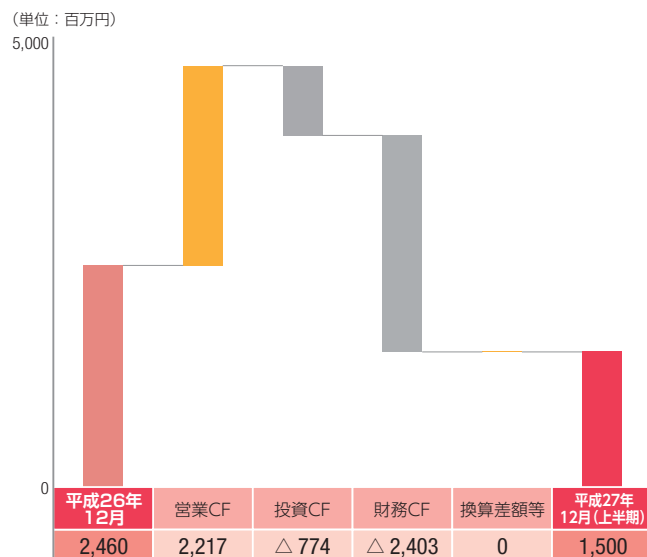
### 負債

主に未払法人税等の増加額75百万円等に対し、支払手形及び買掛金の減少額2,405百万円、短期借入金の減少額1,559百万円、その他流動負債の減少額1,669百万円等により、前期末から6,232百万円減少し、15,110百万円となりました。

### 純資産

主に繰延ヘッジ損益の減少額50百万円等に対し、利益剰余金の増加額463百万円、その他有価証券評価差額金の増加額229百万円等により、前期末から647百万円増加し7,406百万円となりました。

## キャッシュ・フローの状態



### 営業活動によるキャッシュ・フロー

仕入債務の減少2,405百万円、その他の流動負債の減少1,524百万円等に対し、税金等調整前四半期純利益784百万円、売上債権の減少1,260百万円、たな卸資産の減少1,630百万円等により、営業活動の結果獲得した資金は、2,217百万円(前年同期比15.7%減)となりました。

### 投資活動によるキャッシュ・フロー

有形固定資産の取得による支出206百万円、投資有価証券の取得による支出428百万円、貸付けによる支出123百万円があったこと等により、投資活動の結果使用した資金は、774百万円(前年同期比252.4%増)となりました。

### 財務活動によるキャッシュ・フロー

長期借入れによる収入446百万円に対し、短期借入金の減少1,573百万円、長期借入金の返済による支出1,149百万円、社債の償還による支出40百万円、配当金の支払額59百万円があったこと等により、財務活動の結果使用した資金は、2,403百万円(前年同期比23.8%減)となりました。

# 株主様インフォメーション

## 株主優待

1,000株以上ご所有の株主の皆様には株主優待品を贈呈いたしております。

6月末現在の株主様	1,000株以上2,000株未満 ▶	2,000円相当の米穀製品
	2,000株以上 ▶	4,000円相当の米穀製品等*
12月末現在の株主様	1,000株以上 ▶	3,000円相当の米穀製品

\*うち2,000円相当は「切り餅」を12月中頃までに贈呈いたします。

ポイント  
**1** 年**2**回の贈呈

6月末現在の株主の皆様

▶ **9月頃発送**

12月末現在の株主の皆様

▶ **3月頃発送**

ポイント  
**2** 当社米穀製品をお届けします。

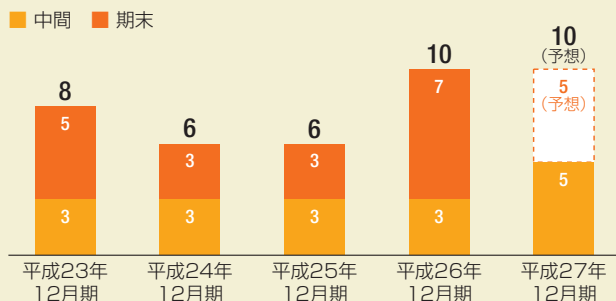


## 配当金

当社は、株主様に対する利益還元を重視する一方、安定的な経営基盤確保のため、内部留保のより一層の充実を目指し、安定的な配当の継続を業績に応じて維持することを基本方針としております。

### ■ 1株当たり配当金の推移

単位：円

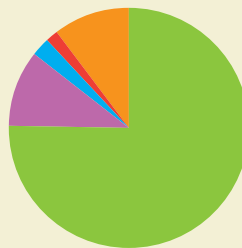


## 第67期株主通信アンケート結果

第67期株主通信においてお願いしておりました株主アンケートでは、大変多くの株主の皆様からご回答いただきました。ご協力いただきました皆様に対し、厚く御礼申し上げます。いただいた貴重なご意見を、今後のIR活動の参考にさせていただきます。

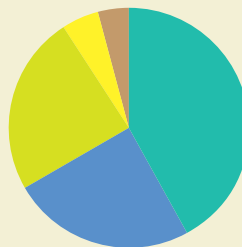
### 当社株式について、どのようにお考えでしょうか？

#### 【投資方針】



長期保有	75.5%
買い増し	10.2%
短期保有(1年未満)	2.6%
売却	1.5%
未定	10.2%

#### 【優待品】



満足	42.2%
やや満足	24.6%
妥当	24.2%
やや不満足	5.1%
不満足	3.9%

実施期間：3月28日から6月5日まで 回答数：260通(返送率：15%)

### 当社に対するご意見、ご要望をお聞かせください。

いつもありがとうございます。美味しくいただいています。各商品のこだわり、美味しく食べるコツなどお米を通して「あ～幸せ～」と感じるちょっとした豊かさのようなものが感じ続けられると嬉しいです。

M&Aの積極化と海外への精米装置(機械)など販売。もっと海外への米の輸出、M&Aを進めてほしいです。

長期保有者の優待充実して欲しい。長く応援していきたいです。



## ● 会社概要

商 号 木徳神糧株式会社

事業内容 米穀事業、飼料事業、海外事業、コメ加工食品事業

本店所在地 〒104-0061 東京都中央区銀座7-2-22

本社所在地 〒132-0011 東京都江戸川区瑞江4-44-17  
TEL：03-5636-1501(代表)  
FAX：03-5636-1601

資本金 5億2,950万円

従業員数 239名(臨時雇用者を除く)

ホームページ <http://www.kitoku-shinryo.co.jp/>

## 株式情報

### ● 株式の状況

- (1) 発行可能株式総数 30,000,000株  
(2) 発行済株式の総数 8,530,000株  
(3) 株主総数 1,635名  
(4) 大株主

株主名	所有株式数	持株比率
木村 謙三	405千株	4.77%
木村 良	354	4.17
濱田精麦株式会社	350	4.12
株式会社三菱東京UFJ銀行	300	3.53
株式会社神明ホールディング	247	2.91
木村 友二郎	243	2.86
稲垣 辰彌	230	2.71
水野 正夫	228	2.68
木徳神糧従業員持株会	195	2.30
株式会社三井住友銀行	186	2.19
農林中央金庫	186	2.19

(注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。  
2. 持株比率は、自己株式(48,291株)を控除して計算し、小数点第3位を切り捨てて表示しております。

## ● 役員

### 取締役

取締役会長 木村 良  
代表取締役社長 平山 惇  
取締役常務執行役員 三澤 正博  
取締役常務執行役員 伊豫田直記  
取締役常務執行役員 天川 誠  
取締役執行役員 鎌田 慶彦  
取締役執行役員 竹内 伸夫  
取締役執行役員 稲垣 英樹  
取締役執行役員 石田 俊幸  
取締役執行役員 竹田 光男

### 監査役

監査役(常勤) 高橋 健治  
監査役(社外) 杉野 翔子  
監査役(社外) 福田 眞也

### 執行役員

執行役員 大橋 正博  
執行役員 岩苔 永人  
執行役員 冢辺 義之

## 株主メモ

事業年度 1月1日から12月31日まで

定時株主総会 毎年3月に開催いたします。

基準日 定時株主総会については12月31日、その他必要があるときはあらかじめ公告する一定の日

配当金受領株主確定日 12月31日及び中間配当金の支払を行うときは6月30日

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号  
TEL 0120-232-711 (通話料無料)

上場証券取引所 株式会社東京証券取引所

公告方法 日本経済新聞



# ホームページのご案内

より多くの方々に当社を理解していただけるよう、専用コンテンツ1分で見分かる木徳神糧<sup>®</sup>をはじめ！R情報やレシピ情報などホームページの充実を図っております。是非ご利用ください。

<http://www.kitoku-shinryo.co.jp/>

木徳神糧

検索



トップページ



R情報



1分で見分かる木徳神糧



## 旬の食材を使ったレシピ 夏野菜入りスタミナサラダ

調理時間 15分  
カロリー 210kcal (1人分)

スタミナもビタミンもたっぷり摂れてささっと作れる、夏にピッタリなサラダです。

### 材料(2人分)

うなぎの蒲焼き	2串(約100g)	きゅうり	1/2本	A
にがうり(ゴーヤ)	小1/4本	トマト	1個	
レタス	2枚	パプリカ(赤)	1/4個	うなぎのたれ 小さじ3
水菜	1/2株	青じそ	2枚	酢 小さじ1
				オリーブ油 小さじ1

- ① うなぎの蒲焼きは約2cm角に切り、フライパンに油はひかず表面をこんがり焼き、冷ましておく。
- ② にがうり(ゴーヤ)は、縦半分に切り種とワタを取り薄切りにする。レタスは、手で小さめにちぎる。水菜はざく切りにする。きゅうりとトマトは、食べやすい大きさに切る。パプリカ(赤)は細切り、青じそはせん切りにそれぞれ切り、トマト以外を水にさらしてパリッとさせ、水気をきっておく。
- ③ ②の野菜と①のうなぎを器に盛り付け、Aの材料で作ったタレをかける。

**Point**

- 丼ぶり物にもアレンジできます。
- うなぎの蒲焼きは、缶詰を使うと簡単にできます。

表紙の答え  
② コシヒカリ  
北陸は旧名で越国といわれ、「越」に光輝く「光」をかけたものです。



〒132-0011 東京都江戸川区瑞江4-44-17  
TEL : 03-5636-1501(代表)  
FAX : 03-5636-1601

